

今週（1月12日から1月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期終盤にあたることから、引き続きしっかりと地合いが続いた。日銀当座預金残高が概ね480兆円台後半で推移する中、無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.050～▲0.005%のレンジでの出会いとなった。12日の加重平均レートは▲0.016%と先週に引き続き高水準で始まった。週末要因が剥落し、一部ビッド水準を引き下げる先がみられたが、全体としては堅調であった。週末15日が翌積み期にかかる週末となるため、O/N調達を前倒しする動きがみられ、13日▲0.012%、14日▲0.008%と上昇していった。積み最終日にあたる15日は、翌積み期にかかる調達を見送る先が散見される一方、全体として資金調達ニーズは底堅く、▲0.050～▲0.005%での出会いとなっていた。ターム物に関しては1～2W物のショートタームで引き合いが散見された。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、ほぼ前週並みの水準で推移した。週初12日のT/Nは▲0.075～▲0.065%の出会い、翌13日のT/Nは▲0.08～▲0.065%で推移した。翌14日のT/N（15-18日）は積み期間を跨ぐ取引となり、前場はオファーサイドが積極的だったものの、後場に投資家の資金調達が一服した後は強めの出会いも見られ、▲0.085～▲0.075%の出会いとなった。15日のT/Nも、▲0.08%出会いと横ばい圏で推移している。

SCについては、2y413～420、5y140～145、10y354～360、20y171～174、30y65～69、40y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週の入札ラッシュを無難に通過したこともあり、3M物は▲0.095%近辺、6M物は▲0.100%台での出会いがみられるなど、若干の需給の改善が見られた。1Y物は動意なく閑散なマーケットとなった。

13日に実施された短国買入オペは、市場予想より若干少なめの15,000億円でオファーされたが、平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差+0.000%と、無難な結果となった。

15日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.094～▲0.092%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0926%、按分落札利回▲0.0902%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100～▲0.096%出会いと、堅調に推移した。また、今回の発行額は67,000億円となっており、前回から減少した。

●CP市場

今週のCP市場は、15日に電気機器、卸売、電力等複数の業態で大型発行が見られた。投資家の需要は引き続き強く、0%以下でまとまった額を調達するケースが散見された。週間の金額ベースでみると、3,800億円程度の償還に対して、7,600億円程度の発行と発行超となった。市場残高は、事業法人の残高増加が寄与し、週後半には25兆円台となった。発行レートについては、大型発行の場合でも概ね0%以下となっている。特に、稀少銘柄では、CP等買入オペの水準を下回る買いがみられた。

14日にはCP等買入オペが、予定通りの6,000億円でオファーされた。発行市場においてはレートの低下が続いているものの、直近のオペにおいては▲0.03%台の按分レートが続いており、今回も按分レートは▲0.03%と、これまでとほぼ同水準となった。また、今回のCP等買入オペは応札の下限レートが▲0.09%と、これまでの設定より僅かに引き上げられた。直近の短国レートが上昇していること等が要因として考えられる。発行市場やオペ結果に対して、下限レートの引き上げの影響は見られなかった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
1/11（月）						
1/12（火）	28,164.34	0.030	104.21	△ 0.016	△ 0.076	4,862,100
1/13（水）	28,456.59	0.025	103.67	△ 0.012	△ 0.077	4,878,100
1/14（木）	28,698.26	0.030	103.94	△ 0.008	△ 0.079	4,867,400
1/15（金）	28,519.18	0.030	103.83	△ 0.015	△ 0.085	4,876,500

来週（1月18日から1月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/18 (月)					New York祝日 (Martin L.King Jr.'s Day)
1/19 (火)	11月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 1/20発行	20Y 12,000億円 1/20発行		
1/20 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～)	TB6M 38,000億円 1/25発行	交付税借入 10,000億円 1/29借入		12月のユーロ圏消費者物価指数改定値 12月の英消費者物価指数
1/21 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 12月の貿易統計(財務省 8:50)				ECB定例理事会(金融政策発表) 12月の米住宅着工件数
1/22 (金)	12月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 67,000億円 1/25発行	流動性供給 4,000億円 1/25発行		12月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/18 (月)	1,600	▲ 13,800	▲ 12,200	CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 600 ▲ 100 800	500	600	▲ 11,600	TB3M発行▲67000償還59900 流動性供給▲5000
1/19 (火)	2,000	4,000	6,000	CP買入		6,000	6,000	12,000	
1/20 (水)	1,000	▲ 28,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	TB1Y発行▲35000償還14900 20Y発行▲12000 変動15Y償還7600 エネルギー対策借入▲5500期日5000
1/21 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
1/22 (金)	0	1,000	1,000				0	1,000	交付税借入▲10000期日10000
週 間 合 計	4,600	▲ 38,800	▲ 34,200	—	100	6,500	6,600	▲ 27,600	

1/18は日銀予想、1/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新積み期となり、基準比率が減少（12月期間17.5%→1月期間13.0%）することで、動向が注目される。レポ市場は、GC T/Nは、新積み期に入って両サイド様子を見ながらの展開が想定されるが、▲0.10～▲0.07%程度の横ばい圏での推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、20日に6M物、22日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、18日に実施が見込まれる短国買入オペのオフアー額にも注目したい。CP市場は、20・25日発行を含む週となることで、発行残高の増加が予想される。

主要なイベントは、国内では20～21日に金融政策決定会合、22日に12月の全国CPI、海外では20日に12月の英消費者物価指数、21日にECB定例理事会が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入